

＜ もくじ ＞	
1. 2015年度定時総会・第14回大会のお知らせ —出欠席の返信はお早めに！—	1～2
2. 研究会からのお知らせ	2～3
3. 各研究会の概要報告	3～4

## 1. 2015年度定時総会・第14回大会のお知らせ

日 時：2015年6月7日（日） 10：00～16：40

会 場：お茶の水女子大学 本館3階306室

第1部 2015年度定時総会（10：00～10：50）

第2部 大会テーマ：「エイジフリー社会をめざして」（11：00～16：30）

第3部 懇親会（17：00～18：30）

**★総会・大会への出欠ハガキをまだご送付いただけていない方は、早急にお送りください。とくに  
ご欠席の方には、委任状と総会の4つの議案への賛否を示していただく欄がございますので、  
そちらへのご記入もお忘れのないようお願いいたします。**

「エイジフリー社会」とはどのような社会なのでしょう。シニア社会学会は、創立以来15年目を迎えますが、これまで取り組んできたテーマと活動は、何らかの形でこのような社会の実現に結びつくことを暗に意図してきたように思います。

本大会では、清家篤副会長に基調講演をお願いしております。ご期待ください。また、このような社会のイメージを多少とも目に見える形にしていくための試みとして、さまざまな活動をされている5名の会員の方々に、自らの体験に基づいて、「私の考えるエイジフリー社会」についてお話しいただきます。さらに、その後で、会場にお集まりの方々全員に参加していただき、ワールドカフェを行うことによって、全員で議論していただくような機会にしたいと思います。

### ◆会員による体験報告：私の考える「エイジフリー社会」（11：00～12：00）

司会：澤岡詩野（(公財)ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員、当学会理事）

★竹川勝雄（一般社団法人 人材支援機構代表理事）

★中村昌子（立教セカンドステージ大学終了後、現在立教大学大学院修士課程）

★小宮健吉（労務士 現在非常勤の仕事）

★高島芳美（高島平団地在住 同団地でボランティア活動）

★牧野俊浩（音楽家 ボランティア）

◆基調講演：「エイジフリー社会をめざして」清家 篤（慶応義塾長・シニア社会学会副会長）（13：00～14：00）

◆全員参加のワールドカフェ（14：10～16：30）

司会進行 黒澤真澄（当学会会員）・川村匡由（当学会理事）

今大会でも、昨年同様、全員参加のワールドカフェを行ないます。大会に参加されたさまざまな経験をお持ちの会員の方々が、「体験報告」や「基調講演」を聞き、学んだことや、ご自分の経験に照らして感じたことについて、周囲の方と自由に話せたらよいとは思いませんか。

初めての人とでも、身構えたり堅苦しい思いをすることなく、気軽にまた自然に話ができるようにするために、一定のルールがあります。進行係（ファシリテーター）に、そのルールについて最初に簡単に説明をしていただきますが、まず全員の方々にグループに分かれていただき、そのグループ内で、テーマについて話していただきます。その後、同じ人とだけではなく、違う人とも意見交換できるように、数回、席替えを繰り返します。

◆閉会の挨拶（16：30～16：40）

◆懇親会（17：00～18：30） ふるってご参加ください

## 2. 研究会からのお知らせ

### （1）第20回「シニアのICT活用研究会」開催のご案内

1) 日時：2015年6月1日(月) 17：00～19：00

2) 場所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

新宿区新宿一丁目 34 番 5 号直田ビル 3 階

3) 話題提起者：ニューメディア開発協会 川村部長

4) テーマ：総務省「高齢者のICT利用と社会参画の推進」事業の成果と課題

概要：普及著しいタブレットの活用方法をいかにシニアに教えるか？

このカリキュラムとマニュアルの開発から、全国のシニアのICT活用に取り組む団体での講師を対象にした教え方講座の実施まで。昨年度に総務省の事業として実施した取り組みの成果報告を行う。報告の後半には、事業プロジェクトチームに参画したNPO法人IDN 生部代表からもお話を頂く。

5) 参加費：500 円

※参加のご連絡およびご質問については、澤岡 sawaoka@dia.or.jp (@は、半角 にしてメール送信ください) までご連絡ください。

### （2）第86回 社会保障研究会 開催のお知らせ

1) 日時：2015年5月20日(水) 18：00～20：00

2) 報告者：望月 幸代（ミズ総合企画）

3) テーマ：「改訂介護保険について（仮）」

4) 会場：高齢者生活協同組合 会議室（会場が変わりましたので、ご注意ください）

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 7・8階 会議室は8階になります。

※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

### (3) 第20回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：5月25日（月）15：00～18：00  
　　＜開始時間が変更になっています。ご注意ください。＞
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：出版の実行計画についての討議
- 4) その他：研究会費として300円徴収させていただきます。  
　　＊お問い合わせ等は、事務局・島村までお願いします。

## 3. 各研究会の報告

### (1) 第85回社会保障研究会の報告

- 1) 日時：2015年4月15日（水）18：00～20：00
- 2) 場所：日本労働者協同組合会議室（豊島区東池袋1-44-3 池袋ISP タマビル8階）
- 3) 講師：村上紀美子氏（医療ジャーナリスト）
- 4) テーマ：「納得の老後のために 日欧在宅ケア探訪」

3年あまりドイツに暮らし、その後、欧米諸国および日本において取材した在宅ケアの実態が紹介された。ひとり暮らしが当たり前の欧州では、子どもが独立したら夫婦で暮らし、一方が亡くなったらひとりで暮らす。しかし、子どもや近隣との交流はかなり頻繁であり、困ったときには助け合う。ドイツでは、家庭医、よろず相談所、ソーシャルステーション（看護師と介護士が常駐し緊急対応。一日最大4回訪問）、市民後見制度、看取り付き添いボランティアなど、ひとり暮らしを支えるサービスが充実しており、「ひとり暮らしでかわいそう」ではない。ケアの考え方は、「本人の意思とできる力を最大限活かし、足りないところを補うケア」が徹底している。

近未来の介護へのアドバイス：①シンプルで楽な暮らしにギアチェンジ、②助けてもらう時には、はっきり堂々と、③老いの暮らしに伴う危険も覚悟、④老いを支える制度もシンプルに、⑤持てる力を活かして支え合う。

ご自身、超高齢の親と配偶者の親の介護に携わっており、本人の意思を尊重する介護を実践中。すべてに満足できる理想の介護などありえないので、ほどほどのところで満足する「納得の老後」が必要であることを痛感させられました。（袖井孝子 記）

### (2) 第19回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年4月27日（月） 17：00～20：00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：①濱口座長レクチャー：『はじめに—コミュニティは事物で育まれる』  
②出版計画についての質疑応答・意見交換

＊濱口座長は出版本の「はじめに」として執筆された原稿の骨子をレクチャーされ、新しい「コミュニティ論」を提案したいと述べられた。引き続いて、出版計画について活発な意見交換が行われた。（島村 記）

### (3) 第22回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年4月28日（水）18：00～20：00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：星野英紀（大正大学元学長、常任理事）
- 4) テーマ：「震災の復旧・復興と宗教文化の行方」

大正大学学長を退かれた後も学内職を務められる傍ら、真言宗豊山派の僧侶としての職に就かれているお立場から、平成23年3月11日の震災後は福島県浜通り沿いの約20軒の同宗派の寺院からの依頼で、檀家の方々に津波被害に遭われ亡くなられた方々のご供養を49日まで営まれたということです。その後、相馬市の漁業を営む住民の方々が行政とともに寺院に集まって復興計画について話し合う場面に触れ、地域における寺院の役割について学問的見地から関心を持たれ研究を開始されたとのこと。

被災コミュニティの復興には、ハードだけではなくソフトな面への配慮・工夫が必要であることに経験的に気づかれています。ながら、「ソフト」というあいまいな言葉で表現されている経験の意味を明らかにしていくことが必要だと感じられました。そこで、関西学院大学の山 泰幸氏が使われた象徴的復興（つまり、人びとが「これで復興したな」という実感を持てるような、象徴的レベルで復興感を達成するためのコミュニティ儀礼の回復）が重要であるという認識に立ち、現地で寺院や神社が果たしてきた役割を見つめ直すことが必要であるという観点から調査を進められており、すでに何本もの研究成果を発表されております。

ここ1年は、浪江町の請戸地区での寺院に関する調査を始められ、さらに同様の観点から神社にも関心を持たれてインタビュー調査をされています。とくに、被災地で、檀家組織や氏子組織が解体し、葬儀や法事が私化していくことによって、また、祭りの復興がいち早くなされているにもかかわらず、大人の男性中心であった祭りの主体に、女性が加わり、さらに子ども中心へと変化している過程で、寺院や神社が重要な役割を果たせなくなっている現状について、大変貴重な報告をしていただきました。一見、祭りなどの復興によって華やかな面を見せながらも、まさにコミュニティの記憶の景色は、様変わりし始めているようです。

シニア社会学会では、浪江町との関わりができたことから、現地に視察に行ったり被災された方のお話を伺ったり、義捐金を集めるなど、ささやかな支援を続けてまいりましたが、「災害と地域社会」主催で3月14日に行ったシンポジウムで、地元での生活を失い人生の大きな変更を迫られた被災者の方々の「心の問題」にどのように迫ることができるのか、という問題がクローズアップされました。今回のご報告は、宗教そのものではなく地域の「宗教文化」という観点から、「心の問題」に対する一つのアプローチの仕方を示していただいたという意味で、大変興味深いものでした。（長田 記）

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>